

別海町水道事業経営戦略（令和8年3月改定）概要版

1 別海町水道事業経営戦略について

別海町水道事業経営戦略（以下「経営戦略」という。）は、別海町水道事業ビジョンを基として、住民生活に欠かすことのできない水を安定的に供給できるよう事業運営の効率化と健全化に努めるため令和3年度に策定したものです。

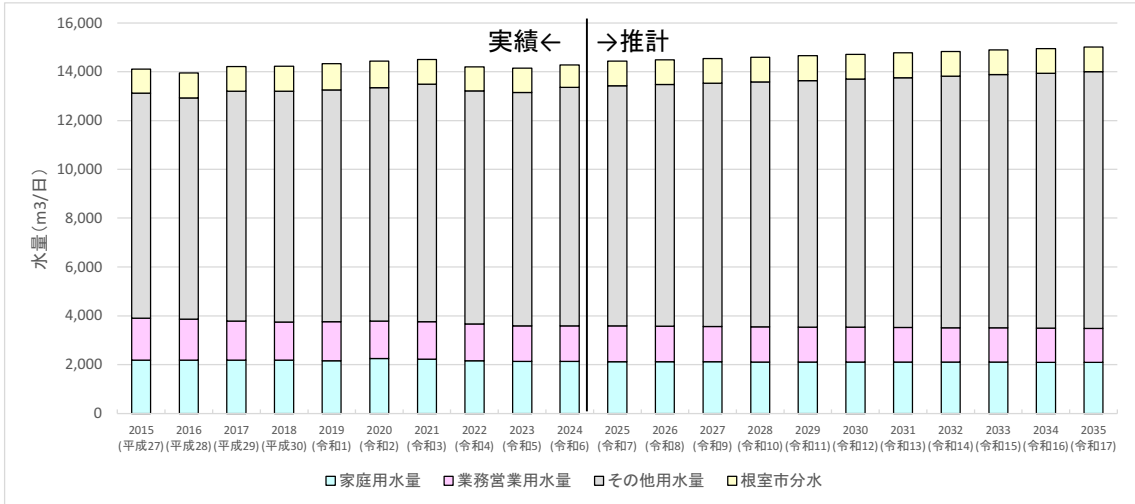
今回、策定から5年が経過したことから、令和8年度から17年度までの10年間の計画期間で改定するものです。

2 現状と見通し

（1）料金収入等

料金収入は、令和6年度決算で 5 億 2,731 万円となっており、今後10年間の料金収入は緩やかに増加していくと予想されます。

給水人口は、令和12年度には令和元年度実績の85%程度に減少する予測（第7次別海町総合計画の行政区域内人口目標値ベースに基づく予測）ですが、料金収入及び有収水量は、乳牛の飼育等に使用する「営農用」の水量が微増となる予測であるため、わずかな増加となる見通しです。

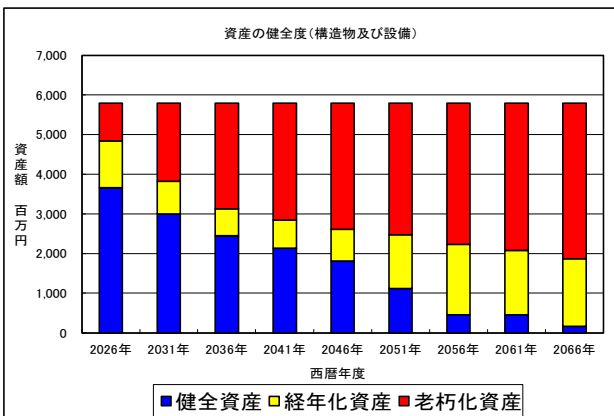


（2）施設更新費用の見通し

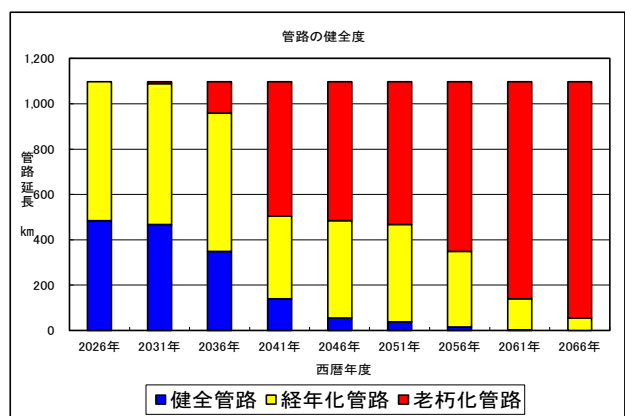
水道施設（管路除く）の資産額（取得価格）は約42億円となっており、現状で約63%は耐用年数未満の健全資産となっています。耐用年数の1.5倍を超えた老朽化資産は全体の7%となり、構築物の3%と機械及び装置の18%が該当します。

管路は約1,100kmが布設されており、約45%が耐用年数以内の健全管路、55%が60年以内の経年化管路となっています。

【構造物及び設備】



【管路】

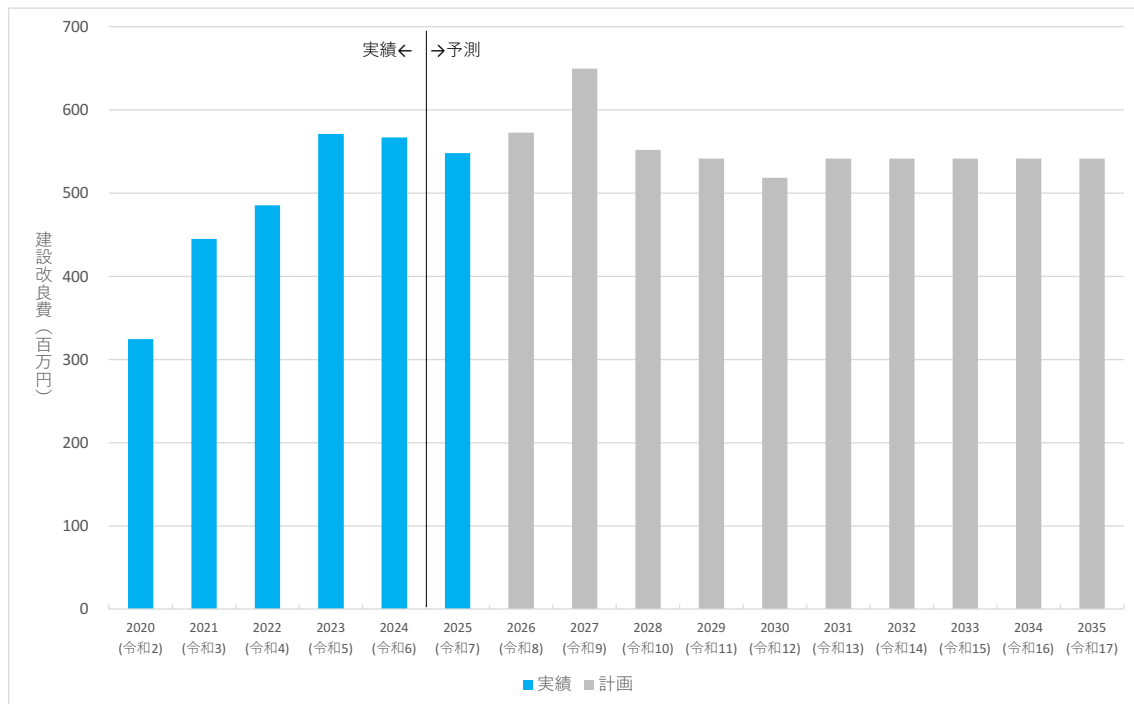


3 投資・財政計画

現在実施している国営別海北部共同事業の資産を終了年次である令和12年度に本勘定へ振り替えた場合、減価償却費等の発生により令和15年度以降は赤字経営となる見込みです。令和17年度までを黒字経営とするため令和15年度に約15%の料金改定を実施するものと仮定し、財政計画を検討しています。

(1) 投資について

現在実施している負担金事業、管路耐震化や量水器の更新等の建設改良費は、令和9年度に3事業の負担金が高額となる時期が重複し6億4千万円となる見込みですが、年間で約5億4千万円を見込んでいます。



(2) 財源について

収益的収入は主に料金収入、資本的収入は主に企業債を予定しています。

(3) 今後の検討予定について

広大な面積を有する地理的条件等により、施設設備の統廃合や近隣市町との広域化を進める予定はありませんが、各施設・設備の更新にあたっては、投資規模の平準化を進めるなど適切に更新を検討し、管路の更新については、経済性の優れた管へ順次切り替えていきます。

今回の改定において、令和15年度には赤字経営となる見込みとなっており、現在検討を進めている施設改修・管路更新計画を具体化していく中で、企業債を活用しつつも将来世代に過度な負担となることがないように料金改定が必要です。

4 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略は、毎年度の進捗管理（モニタリング）と3～5年ごとの見直しにより、投資・財政計画と実績の乖離の検証と将来の予測及び収支バランスの維持に向けた取組等について検討し、必要に応じて修正を行います。